

高 専 通 信

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY(KOSEN), TOMAKOMAI COLLEGE

新入生へ贈る言葉

各副校長ご挨拶

新留学生紹介

卒業生・修了生へ贈る言葉

2020年度進路状況

2021年6月発行

苫小牧工業高等専門学校

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443
苫小牧工業高等専門学校総務課総務係

<https://www.tomakomai-ct.ac.jp>
[MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

VOL.
156

新入生へ贈る言葉



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
これまで暖かく支えてくださったご家族の皆様方、心よりお慶び申し上げます。

令和三年度苫小牧工業高等専門学校入学式を挙行することができ、新入生を迎えられること、教職員一同、本当にうれしく思います。

今年度は、本科第一学年入学生二百十二名、第三学年入学外国人留学生四名、専攻科第一学年入学生三十一名、内外国人留学生一名、合計二百四十七名を迎えることができました。新型コロナウイルス感染症の影響で、勉強に打ち込むことが難しい状況乗り越えて、入学の日を迎えられたこと、本当におめでとうございます。

苫小牧工業高等専門学校は、昭和三十九年、一九六四年四月に設置され、五十七年の歴史を有します。全国には五十一の国立高専があり、約五万人の学生が最先端工学を熱心に学んでいます。皆さんは苫小牧高専に留まらず、全国の高専生とともに学ぶこととなります。そして、ロボコンのような各種のイベントを通じて、全国の仲間と競い、交流する機会があります。さらに、高専は海外の教育機関との連携も強化しています。昨年はこれらの活動もオンラインによる実施となりましたが、高専では学びを止めないための様々な取組を行っていますので、積極的に参加してください。

高専は五年間で大学卒業に匹敵する高いレベルの専門教育を行う学校です。さらに二年間の専攻科では、一層高度な専門教育と先端研究に取り組み、大学卒業と同じく学士の学位を授与されます。本科に入学される皆さんは、一日も早く専門教育を受け

たいと心待ちにしていることでしょう。一年生の期間には、様々な専門分野の特徴を知ることができ、教員や先輩のアドバイスをしっかりと耳を傾け、自分に適した専門分野を見つけてください。高度な専門科目を理解するためには、幅広い基礎科目の深い知識が必要となります。これらについてもしっかりと取り組んでください。

これからの高専での日々は、決してすべてが順調ではなく、難しい勉強に苦勞をし、クラブ活動の厳しさに耐え、友人関係に悩むこともあるかと思えます。しかし、そのすべてが立派な技術者として社会で活躍するための準備であり経験となります。分からないことなどは一人で悩まずに、担任または他の教員に遠慮なく相談してください。本校には、皆さんを支援する様々な取組がありますので、積極的に活用してください。そして、高専における様々な学びと活動を通じて、自分自身の社会人力の向上に励んでください。

苫小牧高専の教育理念には、「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」とあります。教職員一同、皆さんの学びをしっかりとサポートしますが、皆さん自身の学び続ける姿勢が一番大事です。

皆さんが楽しく充実した学生生活を送り、最後には全員が揃って卒業・修了の日を迎えられることを願っています。

苫小牧工業高等専門学校長 小林幸徳

在校生からのメッセージ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大きく環境が変わりまだ慣れないこともあるかと思いますが、この1年間は高専で自分がどの分野を専門に勉強していくかを決める重要な1年です。まだ自分に合った分野を見つけられていない人も多くいると思います。系選択は学校生活だけでなく今後の進路も左右するものなので、自分が将来なにをやりたいのかを意識しながら各系についてよく調べ興味のある分野を見つけてほしいです。

長いように思える5年間ですが、経ってみるとあっという間です。ぜひ高専でしかできないことを多く経験してほしいと思います。勉強などで大変に思う時期もあると思いますが、後悔の無いよう勉強だけでなく部活動や遊ぶことも両立したくさんの思い出を作ってください。高専祭や体育大会などの学校行事にも積極的に参加してほしいです。皆さんのこれからの高専生活が充実したものになるよう応援しています。

5年1組 小澤恵太



1年生の皆さん、入学おめでとうございます！都市・環境系5年の澤井です。

コロナ禍の中で始まった新しい生活にも皆さんはもう慣れてしましたか？

私たちの都市・環境系では主に橋やコンクリート、道路といった構造物を造る上で必要な知識や技術を中心に学びます。コンクリートを作ったり、学校内で測量をしたり身体を動かす機会が多いので体力のある人にオススメです。

また、毎年団結力の強い人が多く集まるので、体育大会や高専祭ではクラス一丸となり、とても盛り上がっています。皆で優勝を目指してスポーツや屋台、喫茶に取り組むのはとても楽しいですよ！

就職に関してはJRやNEXCOといった全国規模の大企業からの求人のほか、地元の役所などにも行きやすいなど様々な場所や企業から選べるのが大きな魅力です。

都市・環境系はみなさんをお待ちしています！

5年2組 澤井一樹



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい生活様式にも慣れてきた頃でしょうか。皆さんの中には、行く系を決めて入学した人、まだ決めていない人がいるかと思っています。系の選択は今後の4年間だけでなく、将来の進路を左右することになりますので、創造工学1の系体験や先輩方から話を聞くなどして、じっくり悩んで系を決めてほしいと思っています。

応用化学・生物系では材料、石油化学から食品、医薬品まで幅広い化学を学ぶこととなります。4年生になると機能材料コースと食品・バイオコースを選択し、より専門的な知識と技術を習得します。カリキュラムには実験が多く組まれているので、「実験が大好き！」という方や、将来的に白衣を着た化学の研究者を目指したいという方にはお勧めです。

高専生活の5年間は長いと思うかもしれませんが、振り返るとあっという間に過ぎていきます。今後、皆さんが充実した高専生活を送れるよう応援しています！

5年3組 長岡佑哉



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんはこの1年で自分の勉強したい系を選び、5年間を過ごしていきます。系選択でこの1年間皆さんはとても迷うことと思います。ですが、5年も過ごすことになるのでこの先頑張れるか、将来就きたい仕事のことなど、後悔の無いように選んでほしいと思います。電気電子系では今の世の中のほとんどの物事にかかわる電気について幅広く学ぶので多くの業種から必要とされています。これから先勉強はもちろん難しくなっていきますが、5年という時間を勉強だけに使うのはとてももったいないです。部活や学校行事はもちろん全力で取り組んでほしいですが、何より自分がやりたいと思ったことに正直になり、たくさんのことにチャレンジしてほしいと思います。新しい環境で新しい友人と出会い、皆さんが楽しかったといえる時間を過ごせるよう応援しています。

5年4組 森山碧月



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新しい環境には慣れてきましたか？創造工学科として入学された皆さんの中には、来年からの系配属について悩んでいる方も多いと思います。この一年間、五つの系について知る機会が多く設けられています。自分が後悔することの無いようにじっくり考えて、自分が本当に学びたい分野を見つけてください。情報科学・工学系ではプログラミングを中心に、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの幅広い分野を学ぶことができます。今世の中を支えているIT技術を学びたい人はぜひ情報系を選んでほしいです。

勉強だけではなく、部活動にもぜひ積極的に参加してみてください。先輩や他クラスとの繋がりができて交友関係も広がりますし、ただ授業を受けているだけでは得られない良い経験ができるはずです。

コロナ禍という先の見えない厳しい状況ではありますが、皆さんが5年間楽しく充実した高専生活を過ごせるよう願っています。

5年5組 高山初音



皆さん、高専生活を楽しくしていますか？入学後2ヶ月近くが経ち、だいぶ高専生活にも慣れてきたことだと思います。もっともクラスの仲間には慣れてきても、2時間連続してある授業や内容の難しさに慣れるにはまだまだ時間が必要だと思います。しかし今皆さんの勉強していることは将来にもとても重要になりますのでいろいろ戸惑うことがあっても地道に勉強していきましょう。

ここでまずそれぞれのクラスの担任教員を紹介します。1組は中野渉(担当教科:数学IA(1組、5組)、趣味:ジョギング、書道)、2組は金野幸吉(担当教科:数学IA(2組)、趣味:研究、ドライブ、スキー)、3組は山下徹(担当教科:物理基礎(3組)、趣味:音楽(教会の賛美のためのバンドでドラム担当)、空手)、4組は坂下俊彦(担当教科:地理(1~5組)、趣味:温泉巡り)、5組は多賀健(担当教科:体育I・保健(1~5組)、マイブーム:娘(8ヶ月)との散歩)です。皆さんが高専で最大限成長できるよう全力でサポートしていきたいです。一緒に頑張りましょう。

次に高専での「生活と勉強」についてお話します。生活面についてはいろいろなことを自分で計画的に進める習慣をつけるようにして下さい。同じ年齢で比較した場合、高専の生活は高校の生活より自由度が高いと思います。そのため自由に好き放題をしていると必ず痛い「つけ」を支払われます。まず自分で勉強時間、クラブ活動の時間、遊ぶ時間など時間の管理ができるように努力しましょう。特にスマホを高専に来て初めてもった学生は(自分が選ば)いつでもゲームやSNSができる環境にあり「危険」です。セルフコントロールができなければ寝不足、授業中の注意力散漫など負の影響が強くなります。高専の勉強は中学に比べて早いですし、実験・実習があったり、そのレポートの作成などがあり大変です。時間を有効に使えるように自己管理能力を磨きましょう。まずは6月初旬にある達成度試験(1年生の場合はほぼ全科目で前期も後期も達成度試験(中間試験)があります)、そして9月17~27日にある前期定期試験(期末試験)を目指して頑張りましょう。試験数週間前から計画を立てて試験勉強をして下さい。後期は前期の経験・反省を踏まえて努力して下さい。

さて、高専にもいろいろな行事があります。高専の行事は中学のとき

と違い学生が主体となって進める部分が大きくなります。その分達成感も得られますし、人間的成長も感じられると思います。コロナ等の影響でどうなるかわかりませんが、10月23、24日には高専祭、12月16日には冬期体育大会が予定されています。これらの行事は特にクラス単位で仲間意識を共有できる良い機会です。皆さんのクラスに仲の良い友達がたくさんできるように願っています。またクラブ活動においては(クラブによって開催時期が異なりますが)7月10、11日前後に高専大会が開かれます。ほとんどのクラブがこの大会を年間の最大目標としています。この大会ではまず道内4高専で予選を行い、勝ち上がったクラブが全国大会に出場することになります。1年生の皆さんも勉強との両立が可能であればぜひクラブに入って高専での世界を広げてほしいと思います。

高専には少なくとも5年間は在籍することになるとは思いますが、1年生のときのクラスだけは系と関係ありません。皆さんが2年生になり各系に配属された後は5年生まで基本的にクラスのメンバーは変わりません。そのとき他の系にも友達がいることは必ず皆さんの財産になるはずです。ぜひ1年のこのクラスを大事にして下さい。1年間仲良く、そして切磋琢磨して頑張ってください。

第1学年担任からのメッセージ



GREETINGS

各副校長 ご挨拶

今年度より、学生主事を拝命しました須田孝徳（機械系）です。これまで、キャリア教育センターや地域共同研究センターを担当しておりましたが、学生主事関連の業務は初めてとなります。ただ、主事補の佐藤森教授（応用化学・生物系）、近藤崇教授（都市・環境系）、佐々木彩准教授（総合人文科学系）が一緒になって業務を担当しますので、皆様におかれましてはご安心いただければ幸いです。

学生主事ならびに学生主事補は、学生課、保健室、相談室などの学生の窓口となる部署と連携しながら、学生が快適に学生生活を送っていただくためのサポートを行います。なお、今年度の学生相談室長は、昨年度まで学生主事だった中島広基教授ですので、私にとっても心強いのですが、学生にとっても心強いのではないのでしょうか。

コロナ禍ということもあり、課外活動や学校行事で、相当に窮屈な活動になることも予想されます。この状況を皆さんで力を合わせて、そして工夫しながら、楽しい学校生活になるようにしていきたいと考えています。学生の皆様ならびに保護者の皆様のご理解とご協力が必要となります。どうぞよろしくお願いいたします。

副校長（学生主事） 須田孝徳



今年度より寮務主事を務めます都市・環境系の中村努です。寮務主事補の土谷先生（機械系）、大島先生（応用科学・生物系）、佐藤先生（総合人文科学系）、奥山先生（電気電子系）とともに、寮生活全般の指導を行ってまいります。4月5日に、新入寮生74名（一年生男子60名、一年生女子11名、男子留学生3名）を迎え、今年度の学生寮は男子寮266名、女子寮56名、計322名の寮生でスタートしました。

本校の学生寮は通学困難な学生の就学を支援することを目的とする一方、集団生活を通して多くの仲間とともに様々な経験を得ることのできる重要な場であると考えております。新入寮生はこれまでに経験したことのない生活に戸惑うことも多いと思いますが、日々の寮生活を通じて豊かな人間性を身につけられることを心より願っております。しかしながら、昨年度に引き続き世界的なコロナウィルス感染拡大の影響により、本校学生寮においても様々な対策を取らざるを得ず、寮生および保護者におかれましても大変なご不便とご迷惑をおかけしております。普段の生活に戻れることを信じ、寮生、保護者の皆様をはじめ関係各位におかれましても、もうしばらくの間ご理解とご協力を願います。

副校長（寮務主事） 中村 努



今年度より副校長（総務主事）・創造工学科長を務めます平野博人（応用化学・生物系）です。総務主事としては、点検評価、広報、施設・防災、国際化の推進及び国際交流、将来計画と多岐にわたる事項について担当いたします。総務主事補の稲川清教授（情報科学・工学系）、石川愛弓准教授（総合人文科学系）とともに円滑な業務遂行に努めてまいります。

点検評価に関して、今年度は高等専門学校機関別認証評価を受審します。これは教育の質保証の体制について、自己点検評価書を基に大学改革支援・学位授与機構から評価を受けるものです。また、コロナ禍における国際化・国際交流の在り方について、新たに設置された国際委員会の下で検討していくこととなります。

本校は、平成28年度に従来の旧5学科から創造工学科1学科5系7コースに改組され、昨年度に第1期生を世に送り出しました。今後も創造性・探究心豊かな人材を輩出できるよう、教職員一同全力で支援してまいります。

保護者、同窓生、地域の皆様におかれましては、今後とも本校の教育改革並びに学生の教育にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副校長（総務主事） 平野博人



2021年度4月より副校長（研究主事・専攻科長）を務めます応用化学・生物系の岩波俊介です。2021年度の専攻科ですが、2年生は電子生産システム工学（10名）と環境システム工学（6名）の2専攻で、平成17年度から続く「日本技術者教育認定機構（JABEE）」の認定プログラムとなる教育プログラム「環境・生産システム工学」と学融合型教育を受ける最後の修了学生となります。また、1年生は2021年度から本科新カリキュラムに対応しました創造工学専攻の1期生（今年度より留学生1名を含む31名）となります。専攻科創造工学専攻は機械、都市・環境、応用化学・生物、情報エレクトロニクス（電気電子と情報科学・工学）の4系に対して起業家精神を持つ次世代人材の育成を行うフロンティアコースの教育を加えた1専攻4系5コースで、これから2年間学ぶことになります。専攻科学生は本科4、5年に加えて、これら2年間の教育課程を修了することで、4年生大学卒業と同等の学士の資格を取得することができます。専攻科に在籍することの2年間には、一般科目や専門科目などの講義の他に学外研修やマネジメント演習（共同教育）といった実務体験を体感することができる演習系科目や、2年かけて研究成果をまとめる特別研究など、地域連携や創造（ものづくり）を体験しながら、リーダーシップやコミュニケーション能力を養成するプログラムが用意されています。

コロナウィルスの世界的な蔓延が収まらない状況下ではありますが、副専攻科長の三上剛教授（情報科学・工学系）、松尾優子准教授（都市・環境系）と共に全教職員の協力のもと専攻科学生のさらなる学びの充実を念願すると共に、学びの機会の確保に努める所存です。今後ともご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副校長（研究主事・専攻科長） 岩波俊介



昨年度に引き続き教務主事を拝命いたしました。教務主事補の浅見准教授、有馬准教授、中村（嘉）准教授のサポートを得ながら、本校の教育環境の充実・改善に努めて参ります。

今年度の授業について、感染対策を十分に講じた上で可能な限り対面授業を実施します。一方、遠隔授業を併用して渡日できていない留学生の学びを支援します。また、気象警報発令時は、臨時休業ではなく遠隔授業日にすることを予定しています。

さて、仕事ができない人は変化を嫌うと言われていました。違うことをやって失敗するリスクが怖いのです。しかし、今は変化しないリスクの方が大きい時代です。現状維持は後退と同じなのです。学生のみならずには向上心を持っていろいろなことにチャレンジして欲しいと願っています。仮に失敗したとしても、学生時代の様々な経験は社会で活躍するための糧となります。本校は皆さんの見本となるべく、チャレンジ精神をもって進化し続けています。昨年度は遠隔授業をいち早く導入し、今年度は専攻科を改組しました。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを制定し、文部科学省が今年度始めた認定制度の初回認定校となることを目指して準備しているところです。創造工学Iの授業では、北海道大学の1年生と同一のPythonのプログラミング教育を行う他、AIロボットを用いた機械学習（AI）体験を導入します。

保護者の皆様には今後とも本校の教育にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副校長（教務主事） 村本 充



新任教員ご挨拶

1 月から総合自然科学系の数学・応用数学担当として着任いたしました。柏瀬陽彦（かしわせはるひこ）と申します。ここに来る前は、東京都立川市にある国立極地研究所というところで働いていました。ご存知の方もいるかもしれませんが、国立極地研究所は日本の南極観測の中心的な存在で、私自身も2年ちょっと前に観測隊員として4ヶ月間南極に行ってきました。南極では大自然を相手に思い通りに行くことの方が少ない中、それでもギリギリまで粘ることで何とか必要な観測を行ってきました。（仕事以外の面では、とにかく楽しかった思い出ばかりです）。

研究では、「地球温暖化が南極や北極の海氷（流氷）のでき方&融け方にどのような影響をしているか?」といった疑問を人工衛星データから明らかにする取り組みをしています。人工衛星による観測は現在で40年の蓄積があり、昔の衛星データをいかに上手く活用するかを考えることが最近の課題です。

これまで研究一筋でいましたので、授業のやり方などわからないことが沢山ありますが、試行錯誤をしながらより良い方法を見つけて行きたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



総合自然科学系
特命助教
柏瀬陽彦

都 市・環境系の助教に着任しました加藤晃と申します。出身は福岡県太宰府市、その後山口宇部、札幌、さいたまと転々とし、北海道での暮らしが忘れられず今年度から苫小牧に戻ってきました。

私は土木分野の地盤工学を専門とし、これまで産総研ではメタンハイドレート研究開発、埼玉大学ではベトナムとの共同研究によるSATREPSプロジェクトに従事してきました。その中で、深海底の高圧域地盤とコンクリートやレンガなどの再生路盤材を扱ってきましたが、両者とも一見関係なさそうで、粒状体もしくは多孔質体という共通点を持ち、地盤工学の知識が必須です。また、地球上、主に土の上で暮らす私たちにとって、地盤工学の知識は多方面で、かつ、身近で必要になります。地盤工学を軸として、専門にかかわらず幅広く学生の皆さんと学んでいけたらと思います。

一方で、私は高校生と大学生ではハンドボール部に所属していました。また、札幌在住の頃はスノーボードもやっていたし、実は編み物も少しできます。課外活動でも皆さんと関わられることを楽しみにしています。

北海道についてまだまだ分からないことばかりですので、いろいろと教えてもらえると嬉しいです。よろしくお願いいたします。



都市・環境系
助教
加藤 晃

4 月から国語担当として着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は両親共に苫小牧高専生で、北見生まれ札幌育ちの、生粋の道産子です。大学は東京の日本女子大学に進学し、以来ずっと東京に住んでおりましたが、当初はゴミを「投げる」と言って指導教官を驚かせたり、鼻血を出した友人に「つつべ」を作るように言ってぼかんとさせたりしたものです。ご縁があって故郷北海道の、それも両親の母校に教鞭をとれることを本当にうれしく思っています。

私の専門分野は、近世(江戸時代)の女性文学です。特に、荒木田麗女という人について研究していました。日本文学の研究者にも注目されていない人の作品を調査・研究して、その魅力を紹介することを目標にしています。折々、そうした最先端の研究成果を皆さんにもお話したいと思っています。

皆さんは国語が好きですか。国語というのは、言語能力、いわゆる技術としての国語と、教養として楽しむ国語、二つあると私は思っています。授業を通して技術として国語を身に付けてもらうことはもちろんですが、国語が楽しい、好きだという気持ちを持ってもらいたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。



総合人文科学系
講師
時田紗緒里

令和3年度4月より、創造工学科 情報科学・工学系に着任いたしました。山本椋太と申します。私は、苫小牧高専の情報工学科（当時）を9年前、専攻科を7年前に卒業して、名古屋大学大学院情報学研究科に進学しました。高専時代は、ロボットテクノロジー部に所属し、高専ロボコンに参加していました。そこで、講義だけでは得られないものづくりの楽しさ・難しさを経験し、その後の専攻科・大学院での研究のモチベーションになりました。名古屋大学では、自動車や家電製品などに組み込まれているコンピュータシステムである「組込みシステム」という分野と、ソフトウェア開発の品質向上・効率化などを目的とする「ソフトウェア工学」という分野の研究に従事し、企業と連携して研究を進めてきました。AIも題材としており、より高速なAIを作るにはどうすればよいか?という研究にも、5年以上携わっています。ものづくりの楽しさ・難しさを皆さんと共有しながら、学生の皆さんが、優秀な技術者として、もしくは優秀な研究者として成長していくことをサポートできればと思っています。これからよろしくお願いいたします。



情報科学・工学系
特命助教
山本椋太

新／留／学／生／紹／介

私は3年1組になったモンゴル人のブーキーです。ここに来る前に東京で半年間ぐらい日本語を習いました。しかし、まだ日本の文化、生活になれていませんからちょっと緊張しています。苫小牧に着いたのは3月29日です。北海道は寒いですが、僕が慣れたモンゴルみたいな大気ですから嬉しいです。苫小牧に来る前は日本人の中に一人で大丈夫かと思いました。苫小牧に来た後で私は先生やクラスメイト達と会い、とても良い人達だという事を理解しました。そして、留学生の先輩5人とクラスメイト達が色々手伝ってくれますから心配がいらぬ嬉しいです。部活に入ると思うけど、今はちょっと生活に慣れていないので決めていません。でも、バレー部に興味があるから入りたいと思います。

どうして日本に留学してるかという、モンゴルに日本人が建てた橋とか建物がモンゴル人が建てたものより耐久性がありました。その質がある物を日本に進学して学び、モンゴルへ戻ってから、その耐久性がある全自動工場を建てたいと思い留学しました。僕の夢が事実になるように頑張ります。これからの3年間を楽しみにしています。よろしくをお願いします。



3年2組

バムバムツェウエンドルジ

私はモンゴルから参りましたツェウエンドルジです。日本人にとって私をフルネームで呼ぶことは難しいと思っています。ですからツェークというニックネームで呼んでください。

苫小牧工業高等専門学校に3月29日に着きました。その前は東京で日本語の勉強していました。東京に去年の4月1日に来るはずだったんですが新型コロナウイルスの影響で去年の9月に日本に着きました。ですから日本にきて7か月なので私はまだ日本語が堪能ではありません。これから日本人の友達がたくさんできたら日本語ですぐしゃべられるようになるとおもいます。

私のこの前通っていた学校は苫小牧高専とよく交流があったので私は苫小牧高専に来ました。3年前「Sakura Science」というプランで苫小牧に十日間ぐらい訪れたこともあります。

趣味はYoutubeなどで理科や冒険の動画を見ることです。そして試合ではなく、楽しみのためだけにバスケットボールをするのが好きです。

私は日本人の友達をつくったり、日本の文化を学ぶことがしたいです。高専では建設についてたくさん勉強して、特に橋の研究をしたいです。卒業したら進学する、または日本で就職することを目指しています。この高専で過ごす三年を楽しみにして、頑張ります。よろしくをお願いします。



3年1組

ムンフジャガルボロル

学生会の紹介

学生会は、対面式の準備、学生総会の司会進行、高専祭の企画運営、体育大会のサポートが主な仕事です。今年の対面式は新型コロナウイルスの影響で中止となっていました。学生総会も通常とは違い学生を体育館には集めずに代表者のみで行う予定です。このように例年よりも活動の規模が小さくなっていますが後輩に仕事を引き継いでいくためにも精一杯活動していきます。

しかし、学生会1の仕事ともいえる高専祭の企画運営ですが昨年実施していないこともありかなり不安な状態です。初めて参加する1年生、2年生のためにも総務と協力し、完璧な準備をしようで必ず成功させます。

今年度も昨年度同様に新型コロナウイルスに振り回される1年になりそうですが学生全員で感染対策をしっかり行い楽しい高専生活を送りましょう。

学生会長 5年1組 吉田 空



卒業生・修了生へ贈る言葉

本科卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。

また、これまで暖かく支えてくださったご家族の皆様方、心よりお慶び申し上げます。

本校の卒業生は、これまでに八千名を超えており、皆さんもその一員として加わることになります。また、専攻科は約三百八十名の修了生がいて、広い分野で活躍されています。

本科卒業生の皆さんは、創造工学科一期生であり、新たなカリキュラムで学んだ皆さんが、将来どのような活躍をするのか、教職員はもとより、諸先輩も大変に期待されています。

皆さんにとって、本校での学びはどうだったでしょうか。決して、すべてが順調ではなく、難しい勉強に苦労をし、クラブ活動の厳しさに耐え、友人関係に悩んだ日々もあったかと思えます。特にこの一年間は、遠隔授業や分散登校など、いつもとは異なる環境での学びとなりました。しかも、心待ちにしていた各種行事が取りやめとなり、モチベーションの維持に大変苦労があったことと思います。しかし、すべてを乗り越えた成果の結実として、卒業の日を迎えられたのです。高専教育の特色である理論と実践を通じて身に付けた知識と経験は、必ずや皆さんの将来において役立つことと確信しています。高専での日々は、皆さんのこれまでの人生のおよそ四分の一の時間となります。これから何倍もの長く輝かしい未来が待つ

ている皆さんではありませんが、最も多感な十代の後半を過ごした本校における経験は、今後の人生における苦難を乗り越える力となることと思います。

期せずしてリモート勤務やオンライン会議が急速に普及し、我が国においてもデジタル社会への転換を意味するDXという言葉が頻繁に用いられるようになりました。急速なデジタル化による社会構造の変化は、人々の生活や精神面において予期せぬ問題を引き起す可能性があります。これからの技術者は、単に高機能・高性能な製品を生み出すだけではなく、社会に及ぼす影響についても注意深く考える必要があります。そのためには、皆さん自身が物事を深く考え抜くことが重要です。学びの場は学校における授業のみではありません。日々進歩する技術や変化する社会に対応するためには、あらゆる場を通じて学び続けることが必要です。加えて、周りの意見に耳を傾け、自身自身の意見を明確に伝えるときも、周囲との協調を図ることが重要です。

本校の教育理念には、「豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。」とあります。これからもこの理念を胸に、自ら進んでさまざまな課題に取り組んでください。将来何か難しい課題にぶつかったときに、恩師である先生たちは必ず

や皆さんにとって良きアドバイザーとなることでしょう。高専の門戸は卒業生・修了生にも開かれていますので、気兼ねなく訪ねてください。私たち、教職員一同、社会で活躍している皆さんと再会できることを楽しみにしています。

これからの未来社会を築くのは皆さんの世代です。皆さんのさらなる成長を心から願っております。

令和三年三月十九日

苫小牧工業高等専門学校長 小林幸徳



ポジティブ思考で行こう

高専での5年間は今思い返すとあつという間でした。特に、例年とは異なる生活様式の中で過ごしたこの1年間は、あまりに早く過ぎ去る時間に焦りを感じることもありました。自分なりに締めくくることができたと感じています。

私が後輩の皆さんに伝えたいのは、自分ばかりうまくいかないという考えは捨てるべき、ということです。私自身、ネガティブな思考だからこそ言えるのですが、失敗を引きずる時間は物事を前に進められずもったいないです。あつという間、と書いておきながら、実際には5年という歳月は非常に長いのです。例えば、10日で1割の金利で1万円を借りたすると返済額は5年で3757億円に膨れ上がります。思っているより日々の積み重ねは大きいのです。少しずつでも、毎日何かしら成長につながる行動を続けていけば、その経験は後々大きな武器になると思います。

最後に、今まで何度も支えてくれた友人たち、ご指導ご鞭撻いただきました先生方、そして家族に感謝申し上げます。ありがとうございました。



電気電子系卒業生 両角 燎

贈る言葉

5年の月日は長いようで短いと高専での日々を振り返りながら感じました。昨年はコロナの影響で前期はオンライン授業となり、登校して授業を受けられることや友達と会えることなど今まで当たり前だと思っていたことが当たり前では無かったことに気付かされました。5年間という時間をどのように使うかで今後の人生が決まると思います。私にとって高専で過ごした日々はどこを切り取っても良い思い出で、自分が今まで行ってきた選択に後悔は無いと自信を持って言えます。皆さんにも後悔の無いような高専生活を過ごしてほしいです。

課題やレポート等やらなければいけないことも沢山ありましたが、周りの人たちに恵まれていてとても幸せな高専生活でした。ご指導いただいた先生方、いつも助けてくれた友達、関わってくれた全ての方々のおかげで無事卒業することができました。今まで有難うございました。また、皆さんのこれからの高専生活が素晴らしいものになることを願っています。



情報科学・工学系卒業生 小山明日菜

贈る言葉

在学生の皆さん、無事進級おめでとうございます。留年した方はまた一年頑張ってください。

私は皆さんに興味を持って欲しいと思います。プログラミングや化学、ゲームに読書などどんなものでも構いません。興味は嫌なことから自分を救う手段であり、自身の選択肢も大きく広がります。高専というフィールドは自由で、主に工学に専門的です。どうしても自身の専門に視野は狭まりがちですが、多くの面白さで世界はあふれています。恐れず、大胆に挑戦していきましょう。膨大な時間を持つ学生だからこそできるようなことをたくさん経験し、様々な側面を持つ人間になってほしいと私は思います。

インターネットによって世界は拡大し、多様化の一途を辿るでしょう。物事を多面的な角度から観察でき、かつ自分だけの視点をもつ人材はますます貴重なものになります。高専を最大限活用し、自分だけのセカイを掲げ、世界という大空に旅立ってください。興味さえあればどんな人間にだってなることができます。空想上の大人という存在は自由自在なのです。



環境システム工学専攻卒業生 佐々木遥人

高専生活を振り返って

私は苫小牧高専の4年次に編入という形で入学したため、専攻科卒業まで計4年間の高専生活を送ってきました。高専は理数科目や専門科目の授業が非常に進んでおり、編入学当初は「授業についていけるかどうか」という不安の気持ちでいっぱいでした。また、振り返ると、これまでに私のような編入生を受け入れたことのない先生方にも、心配をかけてしまったように思います。しかし、高専のクラスの間や先生方、環境に恵まれたため、無事本科、専攻科共に卒業することができました。授業や実験、研究などで指導して頂いた先生方、共に切磋琢磨した仲間達に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

高専は良い意味で井の中の蛙になれる環境です。この言葉の意味がわからない在校生の方は、様々なインターンやコンペなどに参加してみてください。高専生の皆さんが持つ可能性を実感できると思います。残り的高専生活を是非、楽しんでください。



電子・生産システム工学専攻卒業生 沖 駿吾

VOICES 卒業生・修了生 からの言葉 Graduates

感謝の高専生活

創造工学科1期生として入学し、早5年が経ちました。2年次から機械系で4年次にはフロンティアコースに進みました。自分の中で色々な経験をしたい、広い知識を持ちたいという思いが、年々強くなりEIT研修やインターンシップ、大学編入、ビジネスコンテスト、学会発表など様々なことに挑戦しました。上手くいったこと、失敗したこと沢山ありましたが、これらは全て自分にとって貴重な経験になりました。

高専生活は楽しいことばかりではなく、辛く大変なことも多くありました。そのような時には、友人や先輩、先生に支えてもらい乗り越えられました。5年生では、就職・進学、研究といった辛く大変なことが待ち構えていますが、在校生には人との繋がりを大切にして充実した学校生活を送ってほしいと思います。

最後に、進路・研究等で相談させてもらった機械系の先生方やフロンティアコースの先生方、楽しい学校生活を共に送った友人、自由な学校生活を送らせてもらった家族に心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。



機械系卒業生 阿部有馬

一番大きな学び

私は入学当初から卒業直前まで高専でうまくやっていた不安でした。しかし、今思えば全てなんとかなりました。これは自分の力ではなく、友人の力のおかげだと考えています。

昔は他人に頼らず自分の力のみでやっていくべきであると考えていました。しかし、学年が上がると、勉強・実習・実験が難しくなると一人の力だけではどうにもならない事態に何度も直面しました。そのたびに、私は友人に助けを求めていました。もちろん、頼りきりのままではなく、友人が助けを求めているときにはそれに応じてきたつもりです。

この経験から互いに助け合うことの素晴らしさを知り、過去の考えを改めました。これがこの5年間で得た一番大きな学びです。在校生の皆さんもぜひ友人と協力し合ってさまざまな困難を乗り越えてください。

最後になりますが、ご指導いただきました先生方、ともに学生生活を過ごした友人たち、家族や様々な面で支えてくださりありがとうございました。心より感謝申し上げます。



都市・環境系卒業生 佐藤 磨弥

5年間を振り返って

小学6年生の時に「高専で化学をやる!」と両親に宣言しました。化学実験がしたい、その思いだけで入学した高専。もちろん現実には甘くはなく、楽しいことばかりではありませんでしたが、今振り返ると毎日が充実した、あつという間の5年間だったと感じています。

最後の1年間は新型コロナウイルスの影響により大変な思いをされた方も多かったと思います。私も卒業研究が思ったように進められず、通常登校に戻ってからは遅れを取り戻すために必死に研究に取り組みました。しかし、なかなか良い結果は得られず、今まで楽しかったはずの実験が嫌になってしまいそうでも苦しかったです。そんな時に相談に乗ってくれた先生方や友人たちには何度も救われました。何度も挫けそうになりながらも最後まで走り切った5年間はこれからの私の力になると信じています。支えてくださった全ての方に感謝しています。ありがとうございました。



応用化学・生物系卒業生 岩崎 凜

卒/業/生/父/母/か/ら/の/言/葉

高専卒業にあたり

創造工学科都市・環境系卒業生／杉村豪太
《父》杉村直樹

皆さん卒業おめでとうございます。ご就職・ご進学される方共に、今後失敗に直面する事があるかもしれませんが、失敗を糧に学び人間を成長させますので、チャレンジ精神を持って前を向き進んでください。また、これから新生活を迎えるに当たり、人間関係を形成する第一歩である「あいさつ」は大切です。あいさつの一文字には意味があり、「愛をこめて」「いつでも」「さきに」「つづける」ということですので、実践される事をお勧めします。

そして、息子へ。

5年間の学校生活色々あったね!勉強・部活動共に先生・仲間にも恵まれましたね!3年次の海外短期留学が人生の転機でしたね!4年次の英語プレコン頑張ったね(先生に感謝)!5年次のフロンティアコース取組みの一環「QRコードで苦小牧を知ろうプロジェクト」が各関係者の皆さんの協力で実現して良かったね!今後も周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、人間的な成長が見られる事を期待しています。最後に高専にして良かったね!

思い出と共に

創造工学科機械系卒業生／阿部有馬
《母》阿部真由美

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

2015年7月オープンキャンパスに参加、当時5年生の機械科の先輩のアドバイスで創造工学科1期生として入学、2年次から機械系で学ぶ事となりました。

専門的な授業、レポート提出、卒業研究など、苦戦を強いられたようですが、仲間と切磋琢磨しながら乗り越えてきたようですね。

フロンティアコースではビジネスアイデアコンテストに参加し成果をあげることが出来ました。杉村君とチームで取り組めたことが大きかったと思います。

高専の5年間で経験した様々なこと、友人と会えたことは一生の宝物です。

あなたの学生生活は、まだ続きます。驕ることなく感謝の気持ちを忘れずに、自己実現のために一步一步、あゆみ続けてください。そして、この時期を謳歌してください。

最後になりましたが、ご指導いただきました先生方、学校職員の方々、息子と共に学び過ごして下さった皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

みなさんの新生活が実り多きものでありますように。



特別功労賞・学会賞受賞者一覧

特別功労賞

都市・環境系	相 藤 優 輝
都市・環境系	奥 河 優 斗
都市・環境系	佐 藤 七 海
都市・環境系	濱 野 谷 拓 望
電気電子系	高 橋 友 喜

日本機械学会 畠山賞

機械系	阿 部 有 馬
-----	---------

全国高専土木工学会 近藤賞

都市・環境系	佐 藤 磨 弥
--------	---------

日本化学会北海道支部賞

応用化学・生物系	塚 本 英 樹
----------	---------

電気学会北海道支部長賞

電気電子系	安 沢 友 花
-------	---------

情報処理学会北海道支部工業高等専門学校奨励賞

情報科学・工学系	築 山 大 地
----------	---------

精密工学会北海道支部学生奨励賞

電子・生産システム工学専攻	岡 崎 凌 大
---------------	---------

退職教員からのご挨拶

退職にあたって

退職するにあたり、僭越ではございますが、一言述べさせていただきます。

最初に、長年にわたり本校教職員の皆様から賜りましたご厚情に感謝いたします。自分だけでは解決できない多くの問題を抱えることもありました。その折々に諸先輩をはじめとする教職員の皆様からの多くのご助言やご協力を思い起こしております。

次に、本校に在籍した学生諸君に感謝いたします。長い教員生活が順風満帆ではありませんでした。病気のために満足な仕事もできない状況もありました。そのような状況下でも、卒業研究や講義において、学生諸君の協力、温情および熱心さに勇気を与えられ、支えられて定年を迎えることができました。

本校を去りますが、多くの思い出を糧に、未来に夢とチャレンジ精神をもって邁進いたします。皆様のご多幸をお祈り致します。



創造工学科
情報科学・工学系
特任教授
吉村 齋

退職にあたって

19 79（昭和54）年に苫小牧高専機械工学科文部教官助手に採用され、この3月に任期満了により42年間の教員生活が幕を閉じることとなりました。

この間、教職員の皆様のお力添えのおかげで、学生の成長を促すべく、一所懸命取り組んできました。例えば、安易に教えることなく、学生の気付きを呼び起こすことで、真の理解と次のステージへと押し上げることを旨としてきました。手取り足取り育ててきた最近の学生諸君には「直ぐに覚えてくれない」と不評をかっていた面があったようです。成長を見届けるのは楽しいことでしたが、曲解して避けられたときは辛く感じたこともありました。指示通りのルーチンワークを器用にこなすことができるだけでなく、一人一人が主体的に業務に取り組むことができる能力を備えることが、今後ますます重要になってきます。自分を追い込んで成長して行ってほしいと思います。

最後に、共に悩み苦しみ成長してきた学生、卒業生の皆さん、お世話になりました保護者の皆様、教職員の皆様に心からお礼申し上げます。

また、バスケットボール部の皆さん。楽しかったです。全国優勝を期待しています。工夫次第なので、頑張ってください。



創造工学科
機械系
特任准教授
野口 勉

TOPICS

令和3年度第1学年オリエンテーションを実施しました

4月15日(木)に、本校第二体育館において第1学年オリエンテーションを実施しました。

第1学年オリエンテーションは例年一泊二日の日程で行われていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑み、今年度は半日の日程に短縮して行いました。実施にあたっては、学生間の距離を確保する、プログラムの合間に換気時間を設ける等の対策を行っています。

初めに、小林校長、須田学生主事による開会あいさつの後、専門系教員による各専門系の紹介が行われました。各専門系で学ぶ事柄や卒業後の進路の解説、ユーモアを交えた教員の紹介等、学生にとって次年度の配属先を検討する一助になったものと思われます。

続いて、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部より講師をお招きし、SNS等に関する講演会を実施しました。学生にとって身近なSNSを題材に、日常に潜むリスク等をわかりやすく講演していただきました。ネットを介して行われた詐欺の実際の音声や、パソコンの遠隔操作を用いた犯罪の手口についての、実演を交えた解説には、学生も興味深げに耳を傾けていました。



公立千歳科学技術大学と包括連携協定を締結しました

4月26日(月)、公立千歳科学技術大学(千歳市)にて、道内4高専と公立千歳科学技術大学間で、「函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校と公立千歳科学技術大学との教育・研究等に関する包括連携協定書」を締結しました。

本協定は、①教育活動の推進、②共同研究の実施、③教育・研究の施設・設備の利用、④学生・教職員の交流を主とした包括連携協定です。

本協定は相互の知見の理解と教育・研究に関して、連携活動に必要な情報の共有に努め、相互に連絡協力し、発展に資することを主な目的としております。

本協定に基づき、幅広い分野での協力体制が整備されたことで、相互に協力し合い、様々な連携活動が活性化されるなど、今後益々の発展に繋がることが期待されます。



苫小牧高専サテライト「C-base」を拠点にした 各企業・機関との連携をさらに活発化していきます!

地域共同研究センター長 當摩栄路

2021年度より、地域共同研究センター長を拝命しました當摩です。何かと不慣れなところが多々あるかと思いますが、今後ともどうぞよろしく
お願いします。

ご承知の通り、昨年度からのコロナ禍の影響で計画していた地域連携活動における様々なイベント等が中止せざるを得ない状況となり、本
年度におきましても感染収束の目途が未だ立っておらず予断を許さない状況となっております。しかしながら、今年度におきましても、本校の従
来からの活動である出前授業、公開講座、実験教室「科学のとびら」等につきましては、実施する予定で準備を進めています。

2018年10月から、中心市街地にある苫小牧市経済センタービル内に苫小牧高専サテライト「C-base」を開設し、技術経営相談窓口の運
用開始から約2年が経ちました。苫小牧市や苫小牧商工会議所および中小企業支援機関（道央産業振興財団や金融機関など）等の専
門家とチームを組み、企業等の課題解決をお手伝いしております。

これにより、地域の様々な課題解決や起業スタートアップ支援、地域の機関と本校との共同研究や共同教育の拠点として強化されることが
期待され、さらなる地域の発展に貢献したいと考えております。（下図を参照ください）

「C-base」が果たすべき役割は、「C」に込められております。具体的には3つの英単語のイニシャルからとりましたのでその由来を以下に
示します。なお、令和3年3月より「C-base」窓口を苫小牧商工会議所2Fの右側にある大部屋に移転し、従前よりオープンな雰囲気、気軽
に立ち寄りやすい環境となっており、「C」の機能強化に繋がることが期待されます。

1. Collaboration : 支援機関は「協働」しチームになって活動します

○企業同士や高専・大学等との共同研究および共同事業を「協働」して促進します

※ここで協働は「同じ目的のために、力をあわせて働くこと」とします。つまり、気持ちや想いを入れて働く、というように捉え、有機的な
活動とします。

2. Catalyst : 「触媒」として機能します

○協働した支援機関のチームは企業等の事業を応援し、その成長速度を促進します

3. Come : 新しい事業をやりたい人たちが来ていただける「たまり場」を目指します

○これから起業したい人や様々な課題がある人などが来ていただけるようにします

○支援機関は苫小牧近郊だけではなくいろんな機関に来ていただけるようにします

また、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のSCORE大学推進型（拠点都市起業環境整備）事業の採択を受けて、2021年
度から共同機関である本校では「C-base」を活動拠点として参画していきます。この事業は、北海道大学を主幹機関とし、小樽商科大学、
ノーステック財団、北海道立総合研究機構、中小機構北海道本部からなる中核組織と広大な北海道内に離散的に立地する大学・高専をネッ
トワーク化し、北海道における起業家人材の育成を推進する事業です。本事業の一環として、6月にはスタートアップインキュベーション施設と
しても活用できるよう、新たにオープンスペースを設ける予定となっております。

しかしながら、外部機関との連携促進や地域の皆様のために効果を引き出すためには、学外、学内の多くの皆様のさらなるご理解とご協力
が必要となります。皆様におかれましては、これまで以上に「協働」していただけますよう、どうぞよろしくお願いたします。



※ “とまなか”とは、苫小牧市を中心とした近隣市町村のこと

地域共同研究センターの活動

〈出前授業〉

地域貢献の一環として、苫小牧市近郊の小・中学校や各種団体等に対し、地域の生涯学習環境の充実に貢献することを目的として出前授業を実施しています。ドローンの操作体験や入浴剤作り等様々な授業を展開しています。



〈公開講座〉

主に小中学生を対象に、講座を通して「ものづくり」の楽しさを知ってもらうのが狙いです。実際にパソコンを使ってプログラミングしてみたり、実験装置を使って化学実験をしたりなど、高専での授業が体験出来る講座です。理科をはじめとした学問への興味や科学技術に関心を持ってもらおうと、趣向を凝らした様々な講座が展開されています。



苫小牧高専サテライト「C-base」

C-baseは、企業等からの技術経営相談窓口として運用されており、本校と地域企業の研究・教育連携を推進し、技術相談やオープンイノベーションの橋渡し等を促進しています。このC-baseで地元企業等が抱える課題を発掘し、学生の皆さんの力を借りて課題解決を目指しています。



〈科学のとびら—苫小牧高専実験教室—〉

イオンモール苫小牧にて行われる大好評のイベントです。テーマごとにブースを設け、スライムを作ってみたり、レーザー加工機を使ってネームプレートを作ってみたりなど、様々な実験を実際に体験できる小・中学生向けの科学教室です。



他にもたくさんのイベントを開催しています！

学生課からのお知らせ

本校の学生課は、担当する業務によって4つの係に分かれています。学生生活に直接関係のある各係の主な業務は次のようになっていますので、問い合わせや連絡は各係の直通電話をご利用ください。

なお、学生課には、保護者等の皆様などから、電話での問い合わせや連絡などが多数寄せられます。こうした電話に対して、「担当係（担当者）に代わります。」などと、電話を回すことで、ご不便をおかけすることもあります。担当係（担当者）ごとに専門の業務を分担しておりますことをご理解願います。また、学生の呼び出しや伝言等の取り次ぎについては、緊急を要するもの以外は行っておりませんので、ご承知おきください。

教務係 [直通電話] 0144-67-8001

- ・ 授業、試験に関すること
- ・ 休学、復学、退学及び進級、卒業に関すること
- ・ 在学証明書、成績証明書、卒業証明書などの学生の諸証明に関すること
- ・ 学生証の申請に関すること
- ・ 担任に連絡がつかなかった場合の欠席等の連絡



寮務係 [直通電話] 0144-67-8002

[学生寮教員当直室] 0144-67-8024
(夜間緊急用17:00~8:30)

- ・ 学生の入寮及び退寮に関すること
- ・ 寮費の徴収など諸経費に関すること
- ・ 緊急の場合の外泊の連絡



学生係 [直通電話] 0144-67-8032

- ・ 奨学金（日本学生支援機構等）に関すること
- ・ 入学料、授業料の免除等に関すること
- ・ 学生の保健管理（カウンセリングの申込等）に関すること
- ・ 学生の課外活動、行事等に関すること
- ・ 学生旅客運賃割引証及び通学証明に関すること
- ・ 就職、進学（大学への編入学試験等）に関すること

図書係 [直通電話] 0144-67-8907

- ・ 図書の閲覧、貸出しに関すること
- ・ 学術文献の収集及び提供に関すること
- ・ その他学術情報センターに関すること



2020年度本科卒業生及び専攻科修了者の進路状況について

2020年度卒業生進路状況						
系	機械系	都市・環境系	応用化学・生物系	電気電子系	情報科学・工学系	合計
求人会社数	725	544	515	744	632	3,160
卒業生数	男	36	35	23	27	148
	女	7	8	14	3	38
進学者数	男	15	15	11	9	63
	女	1	1	8	1	12
企業等	男	21	17	12	18	79
	女	5	4	5	2	21
公務員	男	0	3	0	0	3
	女	1	2	1	0	4
進学先	北海道大学 工学部 室蘭工業大学 北見工業大学 千葉大学 工学部 長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学(2) 酪農学園大学 工学院大学 情報学部 関西大学 法学部 苫小牧高専専攻科(5) 日本航空専門学校	室蘭工業大学(5) 北見工業大学(2) 弘前大学 理工学部 長岡技術科学大学 岐阜大学 工学部(2) 豊橋技術科学大学 琉球大学 工学部 北海学園大学 文学部 北海道科学大学 工学部 苫小牧高専専攻科	北海道大学 工学部 北海道大学 理学部 室蘭工業大学(2) 帯広畜産大学 長岡技術科学大学 東京工業大学(2) 豊橋技術科学大学 苫小牧高専専攻科(8) 北海道情報専門学校 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校	長岡技術科学大学(2) 千歳科学技術大学 北海学園大学 経営学部 苫小牧高専専攻科(6)	北海道大学 工学部 室蘭工業大学 筑波大学 情報学群 千葉大学 工学部 苫小牧高専専攻科(10)	
就職先	ENEOS(株) SUBARUテクノ(株) 出光エンジニアリング(株) 王子製紙(株) 苫小牧工場 オリジナル設計(株) 北ガスジェネックス(株) キャノンメディカルシステムズ(株) キリンエンジニアリング(株) キリンビール(株)北海道千歳工場 ダイキン工業(株) 東海旅客鉄道(株) 東芝エレベータ(株) パナソニック(株)オートモーティブ社 フジテック(株) 北海道電力(株) 三菱電機ビルテクノサービス(株) (株)NTTファシリティーズ北海道 (株)SUBARU (株)ダイナックス (株)タマディック (株)奈良機械製作所 (株)日産オートモーティブテクノロジー (株)日立ビルシステム (株)牧野フライス製作所 東京電力ホールディングス(株) 苫小牧市	(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 NTTインフラネット(株) 伊藤組土建(株) 岩田地崎建設(株)(2) 北日本港湾コンサルタント(株) 東亜建設工業(株) ドーピー建設工業(株) 西江建設(株) 日特建設(株) 長谷川体育施設(株) 東日本旅客鉄道(株) 北海道電力(株) (株)エコテック (株)鴻池組 (株)菅原組 (株)田中組 (株)中山組 (株)メイセイ・エンジニアリング (株)山田組 苫小牧ガス(株) 苫小牧市 北海道(2) 北海道開発局(2)	(一財) 材料科学技術振興財団 (一社) 日本血液製剤機構 DIC(株) 旭化成(株) 出光興産(株) 大阪シーリング印刷(株) 花王(株) 関東化学(株) キリンビール(株)滋賀工場 サントリービール(株)武蔵野工場 星光PMC(株) セッツカートン(株) 東邦化学工業(株) 日本ゼオン(株)川崎工場 ハーバー(株) 森永乳業(株) 佐呂間工場 (株)カネカ 北海道	J-POWERジェネレーションサービス(株) SUBARUテクノ(株) アズビル(株) キャノンマーケティングジャパン(株) パナソニック(株)アプライアンス社 旭化成(株) (株)DieKraft (株)NHKテクノロジー (株)NTTファシリティーズ北海道 (株)マイスターエンジニアリング (株)日立ハイテクフィールドディング 三菱電機ビルテクノサービス(株) 雪印メグミルク(株) 第一工業製薬(株) 中部電力(株) 日本オーチス・エレベータ(株) 富士電機(株) 北海電気工事(株) 北海道ガス(株) 北海道電力(株)	CTCテクノロジー(株) テックファーム(株) (株)JALエンジニアリング (株)NTTデータフロンティア (株)アイスタイル (株)アライト (株)ウィルゲート (株)イー・エル・ピー (株)エム・ソフト (株)シーズラボ (株)ソルクシーズ (株)メンバーズ (株)北海道ジェイ・アール・システム開発 雪印メグミルク(株) 北海道ガス(株) 北海道大学 (技術職員)	

2020年度の進路状況の特徴としては、本科生対象の求人会社数が9年連続で順調に増加（最近6年をみると2020年度は3,160社、2019年度は2,926社、2018年度は2,884社、2017年度は2,668社、2016年度は2,418社、2015年度は2,256社）し、また専攻科生の求人会社数も例年に増して高水準を維持（2020年度は1,303社、2019年度は1,083社、2018年度は968社）していることにあります。これは本校の卒業生の活躍が企業や大学に高く評価された結果と考えております。また、本科生186名（内38名が女子）の卒業生の進路は、41名が道内就職、66名が道外就職、75名が進学する結果となりました。全就職者数に対する道内就職率の推移は2015年度44%、2016年度41%、2017年度40%、2018年度24%、2019年度38%、2020年度38%となっています。しかしながら新型コロナウイルスの影響が本校の求人数にも表れてきています。まだ正確な集計は行っていませんが前年比15%程度減少している感じです。今後の日本経済の動向に注意が必要です。

本校の学生は、コロナ禍、少子高齢化、人口減少、産業構造の変化、環境問題等の困難な時代を地域社会や企業のなかでリーダーとして生きていかなければなりません。大手上場企業でも突然の工場閉鎖や希望退職募集などは珍しくなくなりました。このような中で、仕事に対する自己イメージを持たせるような教育は重要であり、いくつになっても常に自分自身のキャリア・デザインができるような素地をこの高専の在学中に作る必要があります。このようなことを踏まえ、本校では、キャリア講話や創造工学、ホームルームの時間を通して、コミュニケーション力、協調性、多様な価値観への理解、将来の先見性、自分自身の理解など、社会に必要な力を持ってもらえるように、「組織的」「系統的」なキャリア教育の一層の推進に取り組んでまいります。

2021年度も引き続き苫小牧高専卒業生により運営される同窓会「樽前会」及び苫小牧高専を支援して下さる地元産業界を中心とした企業の集まりである「協会」と強く連携してキャリア教育に力を入れていきます。どんな困難な状況の中でも苫小牧高専の卒業生が引き続き社会で必要とされる人材として社会に羽ばたいていけるよう、樽前会そして協会の力を借りて我々もより一層の努力をする覚悟であります。 **キャリア教育センター長 見藤 歩**

2020年度修了者進路状況				
専攻	電子生産システム工学専攻	環境システム工学専攻	合計	
求人会社数	706	597	1,303	
修了者数	男	12	10	22
	女	0	3	3
進学者数	男	6	5	11
	女	—	1	1
企業等	男	6	5	11
	女	—	2	2
公務員	男	0	0	0
	女	—	0	0
進学先	北海道大学大学院(3) 室蘭工業大学大学院(2) 横浜国立大学大学院	北海道大学大学院(5) 東京工業大学大学院		
就職先	フジテック(株) リオン(株) (株)ヴィッツ (株)ビーネックスソリューションズ (株)日立パワーソリューションズ (株)富士通エフサス	出光興産(株)営業研究所 花王(株) 第一三共ケミカルファーマ(株) 東洋エンジニアリング(株) 明治コンサルタント(株) (株)横河ブリッジ 北開工営(株)		

教育目的

本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。(学則第1条)

教育理念

豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てる。

本科学生の学習目標

- I 人間性：正課、行事、課外活動等を通して、豊かな人間性と教養および自主自律の精神を身につける。
- II 実践性：創造力の基礎として、実践力および将来に向けて自らを向上させる学習習慣を身につける。
- III 国際性：世界に目を向ける姿勢と教養およびコミュニケーションの基礎能力を身につける。

専攻科学生の学習目標

- I 人間性：他者と協働し、未来の社会に寄与する、豊かな人間性と教養及び広い視野を身につける。
 - II 創造性：工学分野における専門的な知識と経営的知識に加え、複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力を身につける。
 - III 国際性：地域や国際社会で活躍するための教養とコミュニケーション能力及び相互理解の精神を身につける。
- ※専攻科で育成しようとする技術者像は、「教育理念」および「専攻科学生の学習目標」

●創造工学科の目的

創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。

●創造工学専攻の目的

専門知識や技術を基礎とし、経営的知識をもって社会変化に柔軟に対応して、新しい分野でも活躍できる実践的・複合的能力を養成する。

●研究の目的・社会貢献の目的

学術の進展に教育内容を即応させるため、必要な研究を行う。また、研究活動や地域への教育活動等を通して、地域・社会の発展に寄与する。

人事異動

○令和2年9月18日

教育職員

【雇用期間の更新(令和2年9月18日～令和3年5月31日まで)】
創造工学科准教授(総合人文科学系担当) 平野 慎子

○令和3年2月26日付

事務職員・技術職員

【雇用期間の満了】
事務補佐員(菊田研究室) 江田沙耶子
技術補佐員(菊田研究室) 野中 響己

○令和3年3月1日付

事務職員・技術職員

【採用】
事務補佐員(菊田研究室) 江田沙耶子
技術補佐員(村本研究室) 尾田 龍司
技術補佐員(村本研究室) 藤井友祐

○令和3年3月18日付

事務職員・技術職員

【雇用期間の満了】
研究支援員(松尾研究室) 土居 真澄

○令和3年3月31日付

教育職員

【定年退職】
創造工学科教授(情報科学・工学系担当) 三河 佳紀
創造工学科教授(総合人文科学系担当) 藤 沼 正美
創造工学科教授(総合自然科学系担当) 中野 涉
創造工学科准教授(総合人文科学系担当) 堀 登代彦

【辞職】

創造工学科准教授(総合人文科学系) 片山ふゆき

【雇用期間の満了】

創造工学科特任教授(情報科学・工学系担当) 吉村 齋
創造工学科特任准教授(機械系担当) 野口 勉

事務職員・技術職員

【定年退職】
学生課学生係看護師 漆原 弘美

【辞職】

総務課長(併)総務課課長補佐(財務担当) 松橋 和哉
(北海道大学工学系事務部総務課長)
総務課課長補佐(総務担当) 佐藤 忠淳
(北海道教育大学教育支援部学生支援課副課長)

【雇用期間の満了】

総務課財務係事務補佐員 清水 真記子
学生課教務係事務補佐員 川崎 玲奈
学生課学生係非常勤看護師 大森 明美
学生課キャリア教育支援センター事務補佐員 西入 千登勢
学生課寮務係事務補佐員(寮母) 林 直美
技術補佐員(村本研究室) 尾田 龍司
技術補佐員(村本研究室) 藤井 友祐

【併任の解除】

総務課長補佐(財務担当) 松橋 和哉

○令和3年4月1日付

教育職員

【採用】
創造工学科講師(総合人文科学系担当) 時田 紗緒里
創造工学科助教(都市・環境系担当) 加藤 晃
創造工学科特命助教(情報科学・工学系担当) 山本 椋太

【昇任】

創造工学科教授(応用化学・生物系担当) 佐藤 森

【配置換】

機構本部事務局付(タイ高専)准教授 土居 茂雄
(創造工学科(情報科学・工学系担当))

【出向】

長岡技術科学大学技学研究院情報・経営システム工学専攻准教授 大橋 智志
(創造工学科准教授(情報科学・工学系担当))

【再雇用】

創造工学科特任教授(情報科学・工学系担当) 三河 佳紀
創造工学科特任教授(総合自然科学系担当) 中野 涉
創造工学科特任准教授(総合人文科学系担当) 堀 登代彦
創造工学科嘱託教授(総合人文科学系担当) 藤 沼 正美

【再雇用更新】

創造工学科特任教授(都市・環境系担当) 栗山 昌樹
創造工学科特任教授(電気・電子系担当) 上田 茂太

事務職員・技術職員

【採用】

総務課長 佐藤 規久
(北海道大学病院事務部管理課課長補佐)
総務課財務係事務補佐員 野 夔 敏洋
(北海道教育大学財務部施設課係長(施設企画・管理グループ))
学生課学生係看護師 大森 明美
総務課財務係事務補佐員 高玉 智
学生課教務係事務補佐員 三浦 彩
学生課学生係非常勤看護師 田中 理早
学生課寮務係事務補佐員(寮母) 美坂 直美
学生課図書係事務補佐員 葛西 音於
学生課図書係事務補佐員 演野 谷 拓望

【配置換】

総務課課長補佐(総務担当) 岡本 明彦
(学生課課長補佐)
学生課課長補佐 森 博和
(学生課専門員)
学生課学生係主任 小田 涼太
(学生課教務係主任)
学生課キャリア教育支援センター事務補佐員 山口 麻美
(学生課寮務係事務補佐員)
学生課寮務係事務補佐員 山本 菜央
(事務補佐員(村本研究室))

【再雇用更新】

技術教育支援センター嘱託職員 照井 文哉

【復帰】

総務課調達係主任 齊藤 里奈
(室蘭工業大学調達課調達係主任)
学生課教務係主任 関谷 俊一
(帯広畜産大学入試・教務課学務企画係主任)

【出向】

北海道教育大学財務部施設課係長(施設企画・管理グループ) 小笠原 智紀
(総務課調達係長)

【併任】

総務課調達係長 佐藤 規久
(総務課長)
総務課施設管理係長 野 夔 敏洋
(総務課課長補佐(財務担当))

高専通信

vol.156 contents

1 新入生へ贈る言葉

2 在校生からのメッセージ

3 第1学年担任からのメッセージ

4 各副校長ご挨拶

5 新任教員ご挨拶

6 新留学生紹介

7 学生会の紹介

8 卒業生・修了生へ贈る言葉

9 卒業生・修了生からの言葉

10 卒業生父母からの言葉

11 卒業式写真

12 特別功労賞・学会賞 受賞者一覧

13 退職教員からのご挨拶

14 TOPICS

15 産学連携関係

16 産学連携関係

17 学生課からのお知らせ

18 進路状況

19 教育理念・学習目標等

20 人事異動

編集後記

今年は桜を愛でる心の余裕がないまま春が過ぎ、気がつくとも新緑が美しい季節となりました。まだ雪の残る樽前山を望みながら、あまりに今までと違い過ぎる世の中について様々に思いを巡らしております。

コロナ禍で本校はいち早く遠隔授業を実施いたしました。昨今の頃は広い校舎ががらんとしておりました。今年は、熱心に授業を受けたり、実験や実習に取り組んだりする学生の姿が見られます。放課後にはグラウンドや体育館を元気に駆けまわる運動部や、作品制作などに力を注ぐ文化部の姿も。エゾリスが時折かわいらしい姿を見せる構内には、バンカラな応援団の太鼓の音色が勇壮に響きわたります。先般の緊急事態宣言を受けて再度分散登校・遠隔授業となりましたが、学生たちが生き生きと活動し、自己実現のために充実した日々を送るという、当たり前の日常の大切さを今更ながら実感しております。

高専通信156号では、卒業・入学関連の記事を中心に、退職教員、留学生・新任教員の紹介や産学連携、行事予定などについて掲載しました。最新の情報は、本校HPやFacebookも併せてご覧いただければと思います。日々、状況が変化いたしますが、皆さまご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

副校長（総務主事） 平野博人

[高専通信に関するお問い合わせ先]

苫小牧工業高等専門学校 総務課総務係 ☎059-1275 苫小牧市宇錦岡443

TEL.0144-67-0213 [MAIL] pub_info@tomakomai-ct.ac.jp

